

大阪・関西万博のレガシー展開（案）

2026年2月

大阪・関西万博のレガシー展開にかかる基本方針

- 万博で生まれた人々のつながり、価値創造活動、共創の記憶といった成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぐ。それによって、新技術の実装等による経済の発展、学術・文化を含めた国際交流や観光の拡大、将来世代の育成等を実現していくことを目的とする。
- レガシー展開の検討にあたってはハードだけでなくソフトも重視し、大阪・関西と日本全体の視点で整理する。また、国内展開に留めることなく、国際社会や将来の万博にも展開していく。
- 万博の来場者だけでなく、来場できなかった方々や将来世代にもレガシーを届ける仕組みを構築する。
- 前回委員会での委員・関係者からの発言や、事務局で聞き取った内容をまとめ、3つの柱に整理。これらに剰余金をバランス良く配分する。

(1) 万博で創られた「つながり」の活用

万博では、多様な主体が連携した実証（次世代モビリティなど）や海外とのビジネスマッチングなどの経済面でのつながりに加え、来場者や運営管理者も個々に海外とのつながりを構築。また都市間レベルでも新たな海外ネットワークを拡大。これらをさらに発展させ、つながりを広げていく。

(2) 万博を契機とした創造活動の深化・展開

シグネチャーパビリオンやテーマウィークなど、万博を契機に新たな理念や価値を創造した活動を、一過性のものとせず、さらにアップデートを加えながら継続していく。そして、子どもたちなど将来世代や会場に足を運ぶことの出来なかった人々が、そうした活動を体験できる機会をつくっていくとともに、次期以降の万博に引き継ぎ、国際的にも発信を続ける。

(3) 夢洲の「場の記憶」の継承・展開

夢洲の会場で繰り広げられた共創の熱気は人々の心に刻まれているもの。万博の跡地として開発される「夢洲」において、こうした「場の記憶」を継承・展開し、観光誘客の拡大にも繋げていく。

※博覧会協会の運営記録やノウハウの移管を含め、実施体制は別途検討し、次回の委員会で報告する。 1

(1) 万博で創られた「つながり」の活用

- 万博では、多様な主体が連携した実証（次世代モビリティなど）や海外とのビジネスマッチングなどの経済面でのつながりに加え、来場者や運営管理者も個々に海外とのつながりを構築。また都市間レベルでも新たな海外ネットワークを拡大。これらをさらに発展させ、つながりを広げていく。

取組内容

■ 最先端技術等の実装化・産業化

- 万博で注目された最先端技術等について、政府において検討中の「成長戦略」、「地域未来戦略※」の政策パッケージ等を有効活用し、実装化・産業化を支援する。
※地域の産業クラスターに関する計画の策定が前提。
- 大阪・関西では、産官一体となりオール関西のトップマネジメントによる会議体や支援体制を立ち上げ、特に大阪・関西で強みを持つ分野について実装化・産業化を支援する（次世代モビリティ、再生医療、カーボンニュートラル、スタートアップ・新事業共創ファーム等）。

■ JETROによる海外との連携・展開支援

- 万博を契機に海外展開を検討するもしくは強化したい日本企業や、日本企業との連携を検討する海外政府・海外企業等に対し、JETROのノウハウとリソースを活用し、ビジネス連携を支援する。

■ 海外若手研究者や専門人材との知的交流を促進

- 万博を機に世界とのつながりを広げようとする学生や若手研究者の相互交流等を支援する。

■ 国際交流プログラム

- 将来の万博開催を見据えて、主催国へのデータ・ノウハウの引き継ぎや途上国の人材育成の支援等を通じて、国際社会へもレガシーを還元する。
- 市民レベルでの国際交流の機会を継続して設ける。

■ 万博に関連した広域観光促進

- 万博を契機に高まった「KANSAI」の知名度や訴求力を活かして、関西広域、西日本広域での観光を促進する。

(2) 万博を契機とした創造活動の深化・展開

- シグネチャーパビリオンやテーマウィークなど、万博を契機に新たな理念や価値を創造した活動を、一過性のものとせず、さらにアップデートを加えながら継続していく。そして、子どもたちなど将来世代や会場に足を運ぶことの出来なかった人々が、そうした活動を体験できる機会をつくっていくとともに、次期以降の万博に引き継ぎ、国際的にも発信を続ける。

取組内容

■ 未来世代の価値体験機会を拡大

- プロデューサー等による万博を契機とした創造活動の発展・継続を支援する。
- 万博の理念を継承する文化、芸術、学術、教育活動を継続的に支援する。

■ 全国各地でのイベント展開

- 全国の複数都市でアフター万博イベントを実施する。
- 会期中に大阪・関西で実施したスタートアップイベント、国際会議、展示会等を大阪・関西で継続開催する。
- 持続的な文化・芸術イベントや音楽イベントなどを展開する。

■ 次期以降の万博出展・イベント等を通じた海外への展開

- 世界が交流する場で日本の魅力を継続的に発信していく。
- 2027年の横浜園芸博とベオグラード博、2030年のリヤド博の出展においても、大阪・関西万博の理念・活動を継承していく。

(3) 夢洲の「場の記憶」の継承・展開

- 夢洲の会場で繰り広げられた共創の熱気は人々の心に刻まれているもの。万博の跡地として開発される「夢洲」において、こうした「場の記憶」を継承・展開し、観光誘客の拡大にも繋げていく。

取組内容

- **大屋根リングの残置**
 - 大屋根リングを一部（200m）残置し、記念公園を整備する。そのための初期改修や維持管理（20年間程度を想定）等を行う。
- **記念館の展示**
 - 大屋根リングの外側近くに「EXPO2025記念館（仮称）」を整備し、万博を振り返る展示や来館者の交流を行うスペースを設ける。
- **ソフトコンテンツの整備（万博跡地におけるレガシー発信等）**
 - VRなど最先端技術を活用し、当時の大阪・万博を体験できるコンテンツを整備する。
- **記念公園での文化・芸術イベント**
 - 持続的な文化・芸術イベントや音楽イベントなどを実施し、記念公園を交流の場として活用する。
- **万博に関連した広域観光促進**
 - 夢洲というレガシー拠点を活かして観光誘客の拡大を図り、周辺地域へもその効果を波及させていく。